

さつぱりした娘、ここぞめし食って仕事に行くとかケガしない?? ぞしてもう一人は——
 『大寿司食堂』のむかいにある『かざや』のムスメサン。『かざや』は、夕方から晩八時ころまでやってる。豆腐ステーキの円ほか。ずつと(半年以上)しまつてたが、九月になつてから、またはじめた。前やつたときは人気バツクンで、朝ならともかく、晩にオモテで席があくのを待つ人がいたんだからね、スゴイもんだ。

この『かざや』でイイことはもう一つ、どんなにうるさい酔っぱらいでも店に入るとおとなしくなつてしまふこと。入れずにたぎ出したり、なかに力すくで、という店もあるが、そんなことはしない、なぜかと言ふはこのオバサンのへやさしさでたろう。商店人のアイソ笑ひではないのだ。
 すつとしまつてた向に、オヤジサンが病氣になつたり大変だつたらしいが、健康ですつと『かざや』つづけてほしいなア、と思う。

ニューズ寸評

地下たびのゴキゲン

地下たび——おれたちとの関係は深い。かなり深い。飯場行きを決めて、新しい一二枚コハセのたびをはいたときの気分がソウ快なこと、ゴキゲンなのだ、身も心も。

なぜ「地下たび」というか。昔、九州の炭坑で試験的に行はいてみたら、つまり地下ではいたからだという説と、じかに地面の上ではくからだという説とがあるそうだが、今回のハナシとはあまり関係がない。

さて——

たびの代表的なメーカーの「カ王」はみんな知つて居るだろうと思うが、最近売つてゐるヤツはほとんど南朝鮮か台湾で作つてゐるよ。箱のよこのラベルに「韓国カ王株式会社」とか「台湾カ王股份有限公司」へ有

★このらんは、上のばんは上へ、下のばんは下へ、つづけてよんでください。

中華料理、すし、ほかにも

いい店が、おぼけな奴——

来月号で「めし屋」人気投票結果を発表するときなり、別の機会にまた特集したい。

今月は、銀座通りの店、『松村』やそのむかいにある「かやくめしや」、洋食で安い『精池食堂(シヨンベンガード東どなり)』、また、老人給食で好評の店、この雑誌売つてもらつてゐる『いこい』など、原稿が固にあわなくこのせられなかつた。ゴメンネ。(T.T.)

人気投票例 (オレの友人たちに書いてもらいました)

- ◆ ニーオ (日やとい)
- ◆ 好きな店 > 大寿司食堂
- ◆ 好きな店 > とくになし
- ◆ ニハオ (港灣しごと)
- ◆ 好きな店 > 芝田食堂
- ◆ 好きな店 > 大寅(西の方)
- ◆ 好きな店 > 丸元の近く
- ◆ 好きな店 > 銀座通りとこでも

朝日ジャーナル8/29号の記事「労務者渡世」のバツ

朝日ジャーナルの八月二十九日号には、差別語にフイこの記事が二つあった。

一つは座談会で、一つは東京放送調査局長という職にある高橋照明という人が書いたものだ。そして、ここでは、高橋照明という人の文章の、直接私たちに関係ある部分についてだけ、こちらの意見を書くことにする。結論を先にしよう。

高橋照明という人はまちがつてゐる。ホントは、こんな人を一々相手にしてもはじまらないと思う。多分、相当ニスイ人だろう。

このひと、何をいつてるかというところ、労働者であるに相違ない筈の私たちが特に、労働者。と呼ばれる、その不当を攻撃したことを「一地域の組織のきわめて絶断的な行動」だつたかのように解釈し、また「肝心の当事者よりも、その周辺の運動の指導者の政治的思惑」によつて起つた抗議であ

印刷してある。そして箱のなかには「説明書」(?)が入っている。——より良く、より多くを目ざして。たゞ一筋に勿年。このカ王たゞ。昭和八年に完成した新設工場、韓国カ王株式会社で生産されたもので、次の諸点に特に注意して、皆様に十分、ご満足のいたすべく、製品としてお届けいたしております。……染色についても、日本の染色技術者の指導のもとに改善された、専門工場で……加工面においては、熟練作業員が精製に、ゴム貼りに加工に、真剣に取り組み……

ま、それでちよつとこの「カ王」という会社のことをしらべた。本社は、埼玉県行田市行田、この行田市には他にも地下たびを作る会社がある地下たびのまちだ。たびを作っているカ王ゴム(株)と、全国の主要都市代理店一五〇社へ卸す(株)カ王とがある。どちらも、代表取締役社長は岡安徳一、資本金は四八〇〇万円だ。従業員は、カ王ゴム三〇〇人、カ王三〇人、売上(利益)は、カ王ゴムが一九

七一年で八億五〇〇〇万円(九〇〇〇万円)、カ王の方は一九七三年に一二億六六〇〇万円(七五〇〇万円)で、「たび業界」でも商売のうまい会社だということだ。

カ王ゴム「沿革」によると——昭和五年二月中華民国台湾省に合弁会社カ王建設股份有限公司を設立、同年十月生産開始、同年五月長野工場新築落成……工場は、行田市行田の本社工場、行田市長野の長野工場と、南朝鮮、台湾、の四つのようだ。

さて——もんだいはここからだ。

石油ショックとかなんとかで、地下たびも単手も大巾に値上げされたことがあったやろ、仕事も少なくなつて、泣きつらにハチ、とでもいえるあれは確か、おとしの暮れから五年にかけてだったかな。何が値上げになつても「原料、人件費が高い」という理由で、それ各理由に他のものが値上げになつたり……とにかく地下たびの上がり方は、なかでも並じゃなかったよな。

るかのようにも書いてある。

バカも休み休みいえとはこんな理屈にふさわしい文句だ。

なぜ、工方や手伝いや雑役は労働者なのか、そういう呼び方にされたのか、このひと、わかつてない。

いや、とてもよくわかつてる。

つまりこのひと、労働者というのはサラリ「マン、おしなど、または、ともかく一つ職場に継続して働く者、という自分のイメージを持つてている。それは世間のイメージでもある。

ま、そんなことこまかくはいわない。

問題は、私たちがいま、あえて「労働者」として名乗る雑誌を出しつづけている、そのこととの関係だ。

本来、労働者とは私たちのことだった。しかし現在は高橋というひとのようなアホが世の中に一杯で、私たちを労働者と差別している。だから私たちは、ホントの労働者はこ

ちだ、オシたちをこそ労働者と呼べ！と主張した。その主張を早くした一人に私もいたのはたしかだ。

「それがなぜ「労働者」をいま名乗るかといえは、何も私たちは、世の中一般や高橋照明なんて男が考へてる労働者の仲間、自分も寄せてくれとタノム気持はないからだ。

もう、労働者というコトバは汚されてしまつて、ツバヤヘドヤ、ウソヤハツタリにまみれてる。

私たちの先輩たちが堂々と労働者であつた時代の感じは、いまの労働者というコトバにはない。

だから私たちは、気持ちをあたらしくして、労働者でケッコウ、オイラは労働者だ！と主張を転換したのだ。

労働者というコトバと労働者というコトバを使い分ける世間一般の、差別の感情もドウドウツツということにしたのだ。

その代り、差別されている者の反抗、反乱

ところがその最中、一九七三（昭四八）
 年に「労働力利用、コスト削減」を目的に（可
 東洋経済と海外進出企業一覽）南朝鮮に工場
 を新設しているのだ。場所は「馬山輸出自由
 地域」という、日本企業にとって特権的な、
 朝鮮側にとつて従属的な、権益が与えられる
 ところ。何で「労働力利用」が目的となるか
 が金で「利用」してくれずに、ということ
 だが、向うだと「低賃金」だからだ。やっば
 り資本家はもうけ勘一なのだ、当り前をい
 日本で日本人労働者が三、四千円の日給の
 とき、南朝鮮で朝鮮人労働者の日給は四、六
 百円にしかならないのだ。向うでもおれたち
 のような日雇がいて、やはり生活しているの
 だ。おれたちだ、こゝろオチ現像へ行けば
 チンタラやるし、本船ならヨロクいただいた
 り、荷が砂糖なら小便たれてみたりするのだ。
 「韓国」製が粗悪だという声があるが、や
 っばり、その裏で、黙々とケタオチ仕事をし
 ながら時にヤケおこしたりしてる者がいるの
 だ、と地下三ひきはきながら言うのだ。（下）

まち 街

脊藤 弘

の自由は確保する、ということだ。
 なまじコトバだけ労働者のナカマに入れら
 れてしまうと、その自由が弱くされ、せまく
 されるから、労働者でいいのだ。
 いやいや、むしろ積極的に労働者であろう
 とするのだ。

公明社会民社共産、政党でいえばこんなど
 ころだが、どこもみんな労働者万歳みたいな
 ことを又かして、そこに一つの体制化がすす
 んでいるから、オレたちは労働者だ、労働者
 じゃねえーと、存在をば、きりさせておく
 のだ。
 けれども、この本筋をたどつて行つた環
 台、労働者と差別して呼ばれている者が、労
 働者と呼べと主張することは、それはそれで
 まちがつていない。そこから始まって行くの
 が重要な道だ。
 高橋ナントカなんてひとは問題にするにも
 当たらないのだが、見の成すことはできないか
 ら一言書いたまで。（下）

100パーセント純粋な労働者の町 釜ヶ崎
 揺れ動く歴史の最先端を進み行く町 釜ヶ崎
 俺達は この愛すべき釜ヶ崎を

全国的規模で発展させなければならぬ
 愛憎地区などというくだらない呼称で
 一般社会と分離させる屠殺政策を 何で
 その犠牲者である俺達が見逃せようか。
 ラクして寝ている奴らにはわかるまい
 夜も明けやらぬ舗装人夫の声を
 耳を被う地下鉄工事の音を
 シャンパーに焦げついた汗臭の臭いを
 戸を音を臭いを

スコップ、ツルを持つ五本の指は
 黙つていない
 俺達にまわりつく足枷の鎖を
 資本家とそのシラミともの首に巻きつける
 までは決して黙つてはいない
 オイラのにタイに釜の字が
 うかんででこくる訳じゃなし
 スコップ、ツルを持つ指で、ケツとスコップを
 にぎりしめ、一気に飲みほす酒の味
 舗装人夫の味の味
 地下鉄工事の言の味
 シヤツにしみこむ汗の味

投げつける弾は
 俺達に対する差別社会への怒りだ
 不自然な行政管理社会に対する こみ上げる怒りだ

投稿歓迎・詩・短歌と
 のほか何でも。しり切
 りは毎月二〇日。（採否
 は当編集委で決定）

